

卒論・修論を L^AT_EX で書く

弘前大学工学部地球環境防災学科
学籍番号 名前

2020 年吉日

目次

第 1 章	はじめに	2
1.1	現状と問題点	2
1.2	解決策の提案	2
1.3	数式の書き方	2
第 2 章	つぎに	3
2.1	文献の引用の仕方	3
2.2	図の挿入の仕方	3
第 3 章	最後に	4
付録 A	付録があるときは	6
参考文献		7

第 1 章

はじめに

最初はイントロ的なことを書く。

1.1 現状と問題点

最近の現状と問題点とか。

1.2 解決策の提案

こうしたらいい, とか。

1.3 数式の書き方

アインシュタイン方程式は以下の通りである。

$$R_{\mu\nu} - \frac{1}{2}g_{\mu\nu}R = \frac{8\pi G}{c^2}T_{\mu\nu} \quad (1.1)$$

第 2 章

つぎに

この辺から本番。

2.1 文献の引用の仕方

データは参考文献 [1] にあったものを使った．この文献 [2] も参考にした。

2.2 図の挿入の仕方

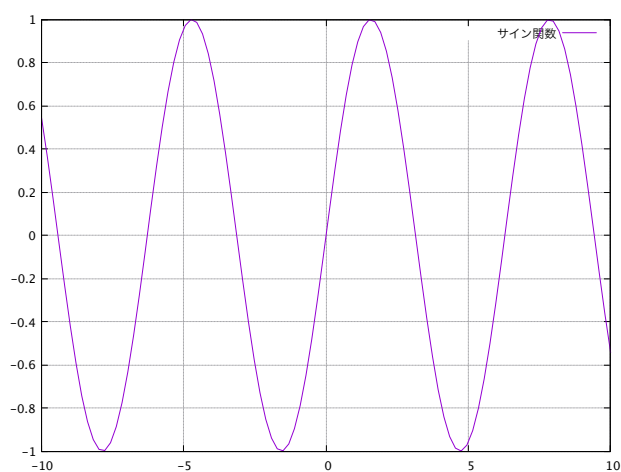


図 2.1 サイン関数のグラフ

第 3 章

最後に

結論とか，まとめとか。最後にいうのもなんだが，ベクトルの書き方。

- 普通の α は `\alpha` で書く。
- `$\vec{\alpha}$` で $\vec{\alpha}$
- `\usepackage{bm}` している場合は `$\bm{\alpha}$` で α
- 並べると， $\alpha, \vec{\alpha}, \alpha$

謝辞

謝辞には第何章とかの番号をつけなくてもよいので，そんなときは，`\chapter*{ }` という具合に書きます。

みなさん，ありがとう．（普通の人が見るのは，イントロと謝辞だけ... という説もあるから，忘れないで書く．）

付録 A

付録があるときは

プログラム文とかを書いてページ数を稼ぎたいときは、以下のようにしてみます。

```
#include <iostream>
using namespace std;
int main() {
    for(int i = 1; i <= 5; i++) {
        cout << "こんにちは，C++ の世界！   " << i << endl;
    }
    return 0;
}
```

\usepackage{ascmac}して screen 環境を使うと，枠がつきます。

```
#include <iostream>
using namespace std;
int main() {
    for(int i = 1; i <= 5; i++) {
        cout << "こんにちは，C++ の世界！   " << i << endl;
    }
    return 0;
}
```

参考文献

- [1] 国立天文台編，理科年表（丸善）
- [2] 天文年鑑，誠文堂新光社。